評価項目	本年度の活動（具体的な手立て）と指標	R 6達成状況	R 6成果と課題	学校関係者評価	評価	R 6今後の改善点
学力保障	<p>○授業改善の取組（非認知能力育成および授業実践・学力支援等） 【目標】 *表現する（話す・書く）ことが楽しいと思える授業づくりによる児童の学力及び学習意欲の向上（個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実）＜社会性＞ *教師の授業力向上（指導方法の工夫改善）＜やりぬく力・自制心＞ *学習ボランティアの活用＜やりぬく力・自己肯定感＞ *地域・保護者等との連携による家庭学習の充実＜自己肯定感＞ 【指標】 *学校アンケートにおいて「国語は楽しい」「算数は楽しい」「国語の勉強は大切だと思う」「算数の勉強は大切だと思う」と答える児童の割合80%以上 *提案授業及び公開授業を年間一人1回実施 *学校アンケートにおいて「国語の授業はよくわかる」「算数の授業はよくわかる」と答える児童の割合80%以上 *「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケートより「国語は楽しい」89%「算数は楽しい」79%で、昨年度より指標に近づくことができた。「国語の勉強は大切だと思う」96%、「算数の勉強は大切だと思う」97%で目標を達成することができた。 ・一人1回の提案授業・事後検討を実施した。 ・児童アンケート「ゲストティーチャー、学習ボランティアの方が来て下さって良かった」は96%で目標を達成できた。</p>	<p>・今年度は机配置を学年に応じて工夫したことで、自分の意見や考えを言える児童が増えた。 ・教育指導課から指導主事を招聘し、表現する（話す・書く）ことが楽しいと思える授業づくりについての研修を行った。授業力向上に役立った。 ・ゲストティーチャー等の出前授業を楽しみにしている児童も多い。今年度は本の読み聞かせ、米作り体験、芋掘り体験、調理や裁縫の支援、海岸清掃などに来ていただいた。引き続きいろいろな人に出会う機会を増やし、担任だけではなく地域全体で児童の成長を支援していく。 ・読書が好きと答えた児童は82%で昨年度より3%増加した。これからもブックトークや学級文庫の充実など、児童が本の楽しさに触れやすい環境を整えていく。</p>	<p>・机の位置を変え、少人数のグループだと意見を言いやすかったり答えを言いやすかったり、発言の回数が増えることで学力向上につながるのかなと思いました。 ・いろいろな人とリアルに対話する機会があるのはとても良い。 ・読み聞かせでも絵本から児童書に移行していけるように意識していきたい。 ・授業に関連付けての読み聞かせ・本の紹介など支援可能と考えているが、学校・保護者からの情報が入りにくいので、相互の関係性をもっとよくしたい。（昨年も同意見を出したが…） ・複線型の学びを取り入れていく中で、ボランティアの関わり方（ボランティアする人の新しい学校教育について認識も含め）を変えていく必要があると思う。 ・児童の学習意欲を引き出すことができていると評価できる。 ・「読者が好きと答えた児童は82%」とあり良い結果だが、親としては読書習慣を身につけてほしいと思っている。今後は本読みの時間が増えることを期待したい。 ・いろいろな人に出会う機会があるのはよいと思う。視野が広がり、いろいろな考え方があると気づききっかけになると思う。 ・単純に端末を利用することが楽しくて、調べものをしたり、漢字や計算をどんどんしてみたいと思って、そんなところが学力向上につながるのかなと思いました。 ・現時点では順調に進んでいるという印象。ICTは始まって日も浅く、できることは無限に広がっているのので、今後の更なる活用に期待する。 ・ツールの1つとして使えているのはすごいと思う。</p>	4.4	<p>・授業に関連付けての読み聞かせや本の紹介など、学校からボランティアの方へお願いしたいところを依頼していく。 学習ボランティアを依頼した授業の前に、支援内容や子どもへの関わり方について授業者と話をする機会を持つようにする。 ・本の楽しさに触れることができるよう、読み聞かせの時間や図書時間を確保する。図書巡回指導員を活用し、ブックトークの実施や並行読書の整備など、図書の充実を図る。 ・県教委作成の問題集「学Viva!!セット」を活用するなどして、条件指定（文字数・キーワードを使うなど）がある問題に取り組む。市教委提供の「読む・書くワークシート」「よむYOMUワークシート」を活用し、読むことに慣れさせる。</p>
	<p>○ICTの活用 【目標】 *授業等でICT機器（学習用一人1台端末・P J等）を活用した、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による主体的・対話的で深い学びの実現。＜やりぬく力・自己肯定感＞ 【指標】 *学校アンケートにおいて「国語の授業はよくわかる」「算数の授業はよくわかる」と答える児童の割合80%以上 *4年生以上で毎日の持ち帰りによる学習用一人1台端末を活用した家庭学習の充実</p>	<p>・学習に関するアンケート「国語の授業の内容がよくわかる」は90%「算数の授業の内容がよくわかる」88%で目標を達成できている。 ・4年生以上で毎日、学習用一人1台端末を持ち帰り、学年に応じた家庭学習を実施した。 ・県外や市外の教育研究会に参加した。</p>	<p>・どの教科においても、主体性を引き出したり、考えを共有したりするためのツールとして学習用一人1台端末を活用している。児童一人一人に応じた学びを支援する工夫を継続していく。 ・授業での利活用が浸透することで、委員会活動や児童集会等で児童が一人1台端末を活用する場面が多く見られるようになった。 ・教育研究会に参加したことを校内で還流し、今後の授業改善につなげていく。</p>	<p>・どの教科においても、主体性を引き出したり、考えを共有したりするためのツールとして学習用一人1台端末を活用している。児童一人一人に応じた学びを支援する工夫を継続していく。 ・授業での利活用が浸透することで、委員会活動や児童集会等で児童が一人1台端末を活用する場面が多く見られるようになった。 ・教育研究会に参加したことを校内で還流し、今後の授業改善につなげていく。</p>		<p>・主体性を引き出ししたり、考えを共有したりするためのツールとして学習用一人1台端末を継続して活用していく。</p>
キャリア教育	<p>○未来応援人（すずか夢工房）・出前講座・ゲストティーチャーの活用 【目標】 *未来応援人や出前講座・ゲストティーチャーを各学年で学習内容に合わせ活用＜社会性・自己肯定感＞ 【指標】 *各学年 年間3回以上の活用</p>	<p>・各学年 年間3回以上活用できた。</p>	<p>・各学年の取組に応じて未来応援人や出前講座等を活用し、専門的な知識を得るなど学習効果を上げることができた。</p>	<p>・わくわくするような、いろいろな専門のことを学んで、将来の夢につながることもあるのかと思いました。 ・統合にむけて、全く同一とはいわないまでも、三校で共通の体験があるほうが良いと思う。 ・私自身、非常に好きな活動。いつも子供からの感想を楽しみにしており、年間3回以上もあるのはとても素晴らしい。幅広いジャンルの講師が来てくれることを望む。 ・6年間を通して様々なジャンルの人間から学べると良い。 ・ふりかえり活動を行っているということで、成長を自覚すれば、更に上を目指そうと思うようになるだろうと思いました。 ・体験後の「わかったこと・感想」はもちろん必要だが、体験前の「この体験で何を知ろうとしているのか」「何を期待、楽しみにしているか」「何が心配で、つまらないのではないかと考えているか」も言語化（自分の言葉で表現）しておく、自分自身のコントロールにも役立つと考える。 ・中学生との交流で、中学校に対する不安が減らされていると感じる。 ・受動的から能動的へ、自立して社会の一員となれるように背中を押してやってほしい。</p>		<p>・ゲストティーチャーを招いた授業は子供の関心も高く、学習効果を上げることもできたため、引き続き積極的に活用していく。 ・再編に向けて3校で共通の体験を取り入れる。</p>
	<p>○人間関係形成・社会形成能力の育成 【目標】 *児童の実態を踏まえた実施計画作成及び授業実践＜社会性＞ 【指標】 *「将来の夢や目標を持っている」と答える児童の割合80%以上</p>	<p>・児童アンケートの「将来の夢や目標を持っている」の質問に肯定的に答えた割合が81%で、目標は達成できている。</p>	<p>・学習や行事などの終わりに振り返り活動を行い、自分の成長を自覚できるような機会を設定している。 ・学習の振り返りでは自分が分かったことだけではなく、友だちの考えの良かったところも発表することができた。 ・出前講座やゲストティーチャー、小中連携事業（中学生との交流）などを通して様々な生き方に触れることができ、将来のビジョンを明確にする児童が増えた。</p>	<p>・学校全体での支援が重要で、様々な連携ができていたようで、素晴らしいと思いました。 ・学外体験（河芸マリーナ）に同行できてよかった。 ・特別支援教育はやはり連携が重要だと思っており、保護者との意思疎通や、学校間にまたがる行事での支援体制なども達成できており良いと感じる。 ・生徒本人、親、学校がそれぞれ相互理解納得できるようにコミュニケーションしていけるといいと思う。</p>	4.8	<p>・振り返りに加えて、体験前には学びたいことを言語化する機会を設ける。 ・キャリアパスポートや作文 綴り方などの取り組みを通して自己評価や目標達成に役立てる。</p>
特別支援教育	<p>○一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進 【目標】 *個別的教育支援計画及び指導計画の作成による個別支援・個別指導の充実＜やりぬく力・自制心・自己肯定感・社会性＞ *支援会議・ケース会議の開催による組織的な支援及び途切れない支援の実施＜やりぬく力・自制心・自己肯定感・社会性＞ *SCや関係機関等と連携した「チーム学校」による支援体制の構築 【指標】 *必要な児童全員への個別の支援計画及び指導計画作成 *必要に応じてケース会議や支援会議等を年間2回以上実施 *SCや関係機関と連携した会議やコンサルテーションの機会をもつ</p>	<p>・必要に応じて個別のファイルを作成した。組織として対応できるよう、日常的定例的に児童についての情報交換を職員間で行った。 ・支援会議やケース会議を、学期はじめや大きな行事に先立って開き、支援について共有した。 ・SCや各校の特別支援コーディネーター、特別支援学級の担任とも連携しながら、学校間にまたがる行事での支援体制について話し合った。</p>	<p>・個別の支援計画を充実させながら、保護者とも連絡を取り合うことで保護者との意思疎通ができた。 ・情報共有を行うことで学校全体で支援体制を速やかに組むことができた。 ・行事や練習の計画をする際には、特別支援の視点を踏まえ、個に応じた対応ができるように立案、実践することができた。</p>	<p>・学校全体での支援が重要で、様々な連携ができていたようで、素晴らしいと思いました。 ・学外体験（河芸マリーナ）に同行できてよかった。 ・特別支援教育はやはり連携が重要だと思っており、保護者との意思疎通や、学校間にまたがる行事での支援体制なども達成できており良いと感じる。 ・生徒本人、親、学校がそれぞれ相互理解納得できるようにコミュニケーションしていけるといいと思う。</p>	3.8	<p>支援級については、在籍児童数が増える一方、学級減により担任数が減るため、組織として支援体制を考えていく必要がある。特に1年生については、入学当初の朝の支援や登下校の見守りなどのボランティアの方にも必要に応じて情報共有し、これまで以上に協力を仰いでいきたい。 学校再編に向けて準備や工事等があり、環境の変化が大きく児童への影響も大きくなると予想される。各関係者との調整を早めに行っていく必要がある。</p>

人権教育	<p>○人権を尊重する態度の育成 【目標】 *「豊かな感性を培い、一人ひとりの違いを認め合って、身の回りの差別を見抜く目を養うとともに、差別の解消に向けた実践行動力をもった子どもの育成」<やりぬく力・自制心・自己肯定感・社会性> 【指標】 *身の回りの差別について考える授業や取組を年に2回以上行う。 *「見つける子」を通した人権課題把握および実践交流の取組を行う。</p>	<p>・学年や学級の実態に合った課題を取り上げた授業を行った。 ・学校公開デーの授業参観において、人権の授業を公開し、保護者への啓発を行った。 ・温かい仲間づくりを目指そうと児童が中心になっていじめ防止川柳を作成し、全校に呼び掛けた。 ・人権ポスター・人権作文・いじめ防止川柳などの機会を利用し、人権について考える時間をもった。 ・「見つける子」を通した各学年の人権課題の把握や実践交流を行った。</p>	<p>・年度初めに学級の課題に応じた人権の授業を行った。教職員で授業の振り返りを行うことで各クラスの課題や取組を共有できた。 ・授業公開デーでたくさんの保護者に見ていただいたが、意見や感想を聞く機会はもてなかった。 ・教育指支援課から指導主事を招聘し、仲間づくりや個別の人権課題についての研修を行った。 ・アンケート数値では改善が見られるが、身の回りの差別について、気づけても相手の立場に立ち考え行動できるかに課題が残る。仲間づくりと人権学習の両輪で取り組むことで、自他の人権を守るための実践行動力を育むため、今後も引き続き取組を続けていきたい。</p>	<p>・人権ポスターなどを作る時は、人権について考えるので、人権を尊重することも学んでほしいと思いました。 ・人権教育・いじめなどについては、家庭での”アンテナ感度”が重要。児童を通じての保護者への啓発は、保護者からの反応いかに関わらず必要と考える。 ・人権学習は長年続けられているが、やはり知識としては身につけているが自分ごととして捉えるまでは、なかなか到達しにくいと感じる。引き続き期待したい。 ・継続した取り組みを願う。 ・多文化に触れることで、日本との違いを知れて、その国のことをもっと調べてみたいと思うようになるだろうと思いました。 ・外国語活動については、原版（英語など）絵本、あるいは、原版日本語の英語翻訳版絵本の活用も楽しいと思う。 ・多文化共生はいまとても重要なテーマであると考えている。しかし、クラスの中にも多様なルーツを持つ子供たちもいることに配慮されているのか？疑問がある。 LGBTQのアウトティング問題と同様に、多文化について話す際にクラス内でマイクロアグレッションやアンコンシャス・バイアスが起きているか？十分に注意してほしいし、先生方にもこれらについての知識を持っていただきたい。 ・現在は1学年1クラスなので、狭い社会が得意やすいことに留意したい。</p>	<p>3.4</p> <p>・家庭との連携に関しては、子どもたちが家庭や地域に直接伝えられるように働きかけたり、授業公開デーや通信等を通じて発信したりしていく。 ・今後も、一人一人を大切に作る取り組みをこれからも日常的に実践し、日々の生活の中で相手の立場に立って考えるような機会を逃さずにとらえ、子どもたちが自然とそれを意識できるように仕向けていきたい。 ・綴り方などの取り組みを通じて、児童の背景理解に努め、児童が一人一人を大切にできる仲間づくりに取り組んでいきたい。</p> <p>世界の文化について教えてもらう機会は貴重なので、ALTと連携して今後も取り組んでいきたい。より外国の文化に興味を持ってもらうために、絵本の活用を行ってほしい。機会があれば、地域で外国の文化に精通している方に話をさせていただきたいが、人材発掘から始める必要がある。</p>
生徒指導	<p>○基本的な生活習慣の確立等による長欠・不登校を生みにくい学校づくりの推進 【目標】 *家庭・関係機関等との連携による早期対応・早期支援<やりぬく力・自己肯定感> *家庭・地域との協働による良好な生活リズムの確立<やりぬく力・自制心> *あいさつ指導の徹底<社会性> 【指標】 *長欠・不登校対応のケース会議・支援会議実施 *生活アンケート・ノーマディア週間等の実施 *「自らすすんであいさつできる」子ども90%以上 *児童会、委員会等による児童が自主的に学校生活を良くしていく活動の実施</p> <p>○子どもが「明日も来たい」と思えるような学校づくりの推進 【目標】 *早期発見・早期指導等によるいじめ予防<社会性・自己肯定感・自制心> 【指標】 *いじめについてのアンケートおよびいじめ対策委員会 年間3回実施 *児童の気になる様子や、学級の現状を毎月情報交換し、学校全体で情報共有するとともに対応を検討する。 *「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と答える児童の割合90%以上 *いじめ予防をテーマにした授業を実践。</p>	<p>・児童アンケート結果より「自らすすんであいさつできる」と回答した児童は84%で、目標を達成できなかった。 ・各委員会から、学校生活をよくしていくための活動を実践することができた。児童会、代表委員会は年間を通して、あいさつ運動を実施した。 ・長欠・不登校等の状況について、報告人数は昨年度の同時期と比べほぼ横ばいだが、昨年度30日以上欠席で報告していた児童のうち複数で登校日数が大幅に増えており、改善の傾向が見られる。</p> <p>・児童アンケートの結果より「学校が楽しい」と83%の児童が回答した。 ・いじめ、虐待についてのアンケート、および対策委員会を年間3回実施し、いじめ、虐待の早期発見や継続した観察に活かした。 ・不登校や配慮の必要な児童の情報を毎月交換し、情報を細かく早く共有することができた。 ・児童アンケートの結果より、「いじめをやめるように言ったり、誰かに伝えたりすることができる」と78%の児童が回答した。</p>	<p>・児童会、代表委員会の活動では、児童が積極的にあいさつできるような工夫した取組を行い、期間中は児童が進んであいさつする様子が見られた。しかし、年間を通して見たとき、取組期間外のあいさつについては、声の大きさや積極性において課題がある。 ・児童会や委員会等で、学校生活をより良くするために、児童が取組を考え、発信する活動を行ってきた。その結果、あいさつに関するだけでなく、自分たちで郡山小学校をより良くしていこうとする姿が見られるようになった。 ・長欠の改善要因について学校全体で共有し、全体の改善につなげる必要がある。</p> <p>・いじめ、虐待についてのアンケートの結果を受けて、各担当が教育相談を実施し、児童の実態を把握して対処することができた。また、必要に応じて対応について複数の教員で協議したり、その内容を職員間で共有したりして、共通理解を図りながら取り組むことができた。 ・定期的な情報交換によって、配慮の必要な児童に関して、共通理解を持って教育活動を進めることができた。 ・いじめを許さない姿勢やいじめを解決しようとする姿勢を育てるため、いじめに関する授業や、人権に関する授業を各学級で設定することで、いじめについて共に考える機会を持つことができた。</p>	<p>・長欠だった児童が、登校日数が増えた理由とか、きっかけが知りたいと思いました。 ・挨拶は、学校のみならず地域とも繋がる非常に重要なことと思っており、児童らがいつも明るく挨拶しているのを見てとても嬉しく思う。しかし、挨拶が「長欠・不登校を生みにくい学校づくり」に繋がるのかどうかは疑問が残る。児童らが休んだ子に対して「休んだ理由などは聞かないようにしている」と聞いた。これはよい取組みである。 ・早期対応や相互理解が大切だと思う。 ・いじめは許されないことをしっかり勉強して、その子の個性だと理解できれば、みんなで思いやり学校は楽しいから行きたいと思うと思いました。 ・児童の「学校をよくしていこう」という姿を、大人が見逃さずに積極的に「いいね」「よくなったね」と伝えなくてはいけない。できればどこがどう良くなったと感じたかを具体的に伝えたい。 ・いじめについては児童らもよく理解し、防ぎたいと思っていることが感じ取れる。</p>	<p>3.2</p> <p>・児童会や委員会の活動を通じて、子どもたちから働きかけて、自らあいさつができるように継続して取り組んでいく。 ・あいさつの習慣がつくように繰り返し声をかけ、あいさつからつながりを作り、友達の様子に気づける児童を育てていけるようにする。 ・不登校傾向が見られた時に、初期対応のための体制をしっかりとつくれるようにする。また、不登校傾向のある児童が学校に来やすい環境を整え、チームで対応し、支援を続けられるようにする。</p> <p>・いじめを許さない、見逃さない姿勢で指導にあたる。 ・困っていることを言えるような児童間や、児童と教師の関係づくりをすすめていく。 ・日々の学校生活の中、健康観察や身体測定等の場面で異変に気が付いたときは、情報を共有し、児童の様子の変化を見逃さない体制をつくる。</p>
地域ぐるみの教育	<p>○鈴鹿型コミュニティースクールの取組推進 【目標】 *「地域と共にある学校づくり」を進める 【指標】 *学校運営協議会の開催回数 年間6回 *月1回の学校だより発行・学校ホームページの積極的な更新を通した地域への情報発信</p> <p>○地域の教育力の活用 【目標】 *地域・保護者・学校の連携・協働により児童の育成を図る 【指標】 *ボランティアによる学習支援 年間170回以上</p>	<p>・学校運営協議会を年6回開催（うち第3回は天栄中学校区拡大：予定含む）。協議内容については、学校HPや学校だよりにて地域・保護者へ発信。また、プレゼンテーションソフトを活用し、教育活動の様子を各委員へ伝えた。 ・学校だよりを月1回以上発行し、教育活動等について発信。また学校HPを活用し、子どもたちの活動について写真等で積極的に発信。特に行事等のタイミングで更新しタイムリーな発信を行う。</p> <p>・交通指導、環境整美等に加え、朝の読み聞かせ、図書館の環境整備、教育活動支援（図工・家庭・算数等の授業支援や校外学習・水泳指導等の見守り）、ゲストティーチャー等様々な支援を受け、本校の教育活動の充実につながった。 ・「作志のへや」「絵本サークル読み聞かせ」復活2年目となり、多くの子どもたちが参加している。</p>	<p>・学校運営協議会では、子どもたちの状況を踏まえた議論が熱心に行われた。さらなる子どもたちの健全育成に向け、協議内容を踏まえた学校運営と合わせ、地域・保護者との連携の在り方を検討していく必要がある。 ・令和8年度開校の「新たな小学校」に向け、地域・保護者と課題を共有しながら取組を進める必要がある。 ・学校HPや学校だよりについて、今後も定期的な更新・発行を続け積極的な情報発信を続ける必要がある。</p> <p>・学校支援ボランティア等地域の様々な方から支援により、子どもたちの安心・安全に向けた取組や地域学習・校外活動・体験活動等教育活動の充実につながった。 ・引き続き地域の教育力を活用した取組を進めるとともに、継続した取組となるよう、特に地域学習や体験活動等について系統立ててカリキュラムへ位置付ける必要がある。 ・今後も地域コーディネーターとの連携を進め、学校と地域のニーズをすり合わせながら、さらなる充実を図る必要がある。</p>	<p>・学校だよりなどで、児童の活動の様子を地域の方に見てもらえるのは良いと思います。地域と保護者の連携を検討していく必要があるとのことで、検討をするべきなんだと思いました。 ・「新たな小学校」に向けて、地域・保護者が課題を共有する場、一緒に話し合う場が必要。現状は、多くの人が他人事と考えているのではないかと危惧している。 ・学校だよりが閲覧板で回ってくることで、地域の人も学校のことを知る良い機会になっている。今後も続けて頂きたい。 ・もっと地域の輪が広がればいいと思うが、地域性を考えると難しいか…？！ ・地域の方の支援はありがたく、地域全体で児童を守って支えているのだなと思いました。 ・ボランティアの固定化、高齢化と保護者が学校と関わる機会の減少は、郡山だけの問題ではない。他校での取り組みを知りたい。 ・地域ボランティアの方々に日々沢山関わっていただいていることを実感している。児童らも「ボランティアの〇〇さん」と名前を覚えており、仲良くしていただけて本当に有り難い。未永く続いてほしい。 ・地域愛が深まるような取り組みがあればいいと思う。</p>	<p>3.2</p> <p>・引き続き、「学校だより」や学校HPにて教育活動について積極的に発信し、保護者・地域の方々に学校での子どもたちの様子を伝えていきたい。 ・今年度はアンケート等のペーパーレス化（二次元コードを配付しフォームにて回答・集計を実施）を行ったが、今後は配付プリント等のペーパーレス化について検討を行いたい。</p> <p>・子どもたちの学力向上や豊かな教育活動のさらなる進展をめざし、引き続き地域コーディネーターと連携し、学校支援ボランティアや地域人材の活用を積極的に図りたい。 ・令和8年4月開校の「新たな小学校」に向け、現在ある地域資源等の活用や再編後のスムーズな移行等子どもたちにとってより良い学校となるべく地域・保護者等と連携し課題を共有する必要がある。</p>